



インド 産業・経済 最新情報（一部）

モディ・
インド首相



共同インターナショナル株式会社
開発部部長 西橋時男

2015年8月25日

日本企業にとっての今後の有望分野 鉄道

プロジェクト	日本企業の対応	参考情報
<p>高速鉄道(ムンバイ、アーメダバード路線)に対する共同調査実施を決定</p> 	<p>新幹線システム売込み、2013年2月アーメダバードで国土交通省(日本)官民セミナーを実施</p> <p>日印政府共同調査、2015年7月20日「新幹線規格が最適」との調査結果を公表。最大の課題は1兆9000億円の資金調達</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. モディ首相は2014年9月の訪日で日本の支援に感謝の意を表明。 2. 2023年開業、走行距離500キロ、最速走行時間2時間7分(現在の特急は7時間) 日本政府は円借款の活用を検討(NHK7月20日) 3. 世界三大鉄道メーカー、ボンバルディア ALSTOM, SIEMENSはインドに車両工場を保有、中国も受注実績あり。
<p>貨物専用鉄道建設計画の進展 デリー・ムンバイ間産業大動脈構想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 双日・L&T 軌道等建設では最大の670億ルピーでLetter of Awardの発行を受ける(2013年6月7日) ○ 三井物産、Tata Projects Limited, Ircn International Limited. コンソーシャム二区間の土木、軌道敷設工事 約760億円受注(2015年8月19日三井物産発表) ○ IHI 鋼橋建設工事受注 210億円 現地L&Tと共同受注(2015年8月21日IHI発表) 	<p>(注:貨物専用鉄道関係の入札はタイド借款の為、日本企業のみが主契約者となる条件)</p>

日本企業にとっての今後の有望分野 電力

プロジェクト	日本企業の対応	参考情報
<p>超臨界圧石炭火力発電所建設</p>	<p>東芝、日立、三菱重工はインドに現地企業との合併による重電機工場を建設(重要部品の現地生産合併の可能性も)</p>	<p>インフラ開発は、総額10兆円以上停滞(新政権により促進の可能性大)</p>
<p>原子力発電所のインドへの輸出 (インド新設計画:50基相当、米仏口に30基を割り当て済み)</p> <p>日本にとってインドは「最後の大市场」:</p> <p>2020年までに原発を18基(総額9兆円)建設する計画</p>	<p>原子力発電設備輸出の前提となる原子力協定について日印両国の2014年9月1日の共同文書では、「交渉の重要な進展を歓迎する」として「早期妥結に向けて交渉を更に加速する」と述べている。</p>	<p>ロシア: 今後20年でインドに少なくとも12基のロシア製原発建設で合意(2014年12月)</p> <p>○Kudankulam(1号機:商業運転中、2号機商業運転に向け準備中、3号機/4号機2016年建設開始、2020-21商業運転開始予定)</p> <p>○Andhra Pradesh州:協議開始中</p> <p>米国: ○GE :Andhra Pradesh(Srikakulam郡)割り当て受ける。 ○Westinghouse : Gujarat州 商業契約交渉初期段階</p> <p>フランス: Arevalは、マハラシュトラ州でインド政府と覚書締結、案件促進中</p> <p>日本: 可能性も。2015年末</p> <p>オーストラリア: インド向けウラン輸出に合意(2014年9月)</p>
<p>原子力関連情報出所:Financial Times</p>		